

葉たばこの二重遮光ハウスにおける乾燥法

(農試県北分場)

1 背景とねらい

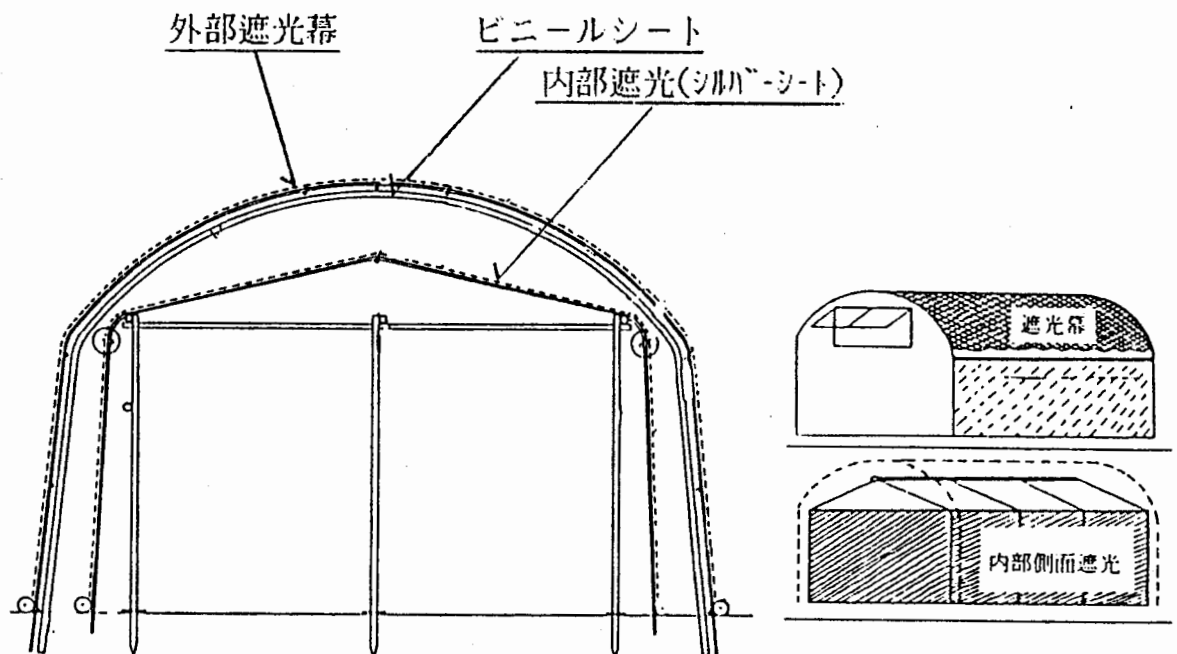
バーレー種の乾燥は、これまで、一重遮光幕で被覆したパイプハウスにより行われることが多かった。

この乾燥法では、温度、湿度の変化が大きく、急乾葉、ムレ葉等、品質不良葉の発生することがおおくみられ、また、好適条件を維持するために、ハウスの温度管理に労働を多く要するなど、改善すべき点があった。

こうしたことから、乾燥管理の省力と最近の嗜好ニーズにあった高品質葉を得るための乾燥法について検討し、二重遮光幕による乾燥法が有効であることが明らかとなったので、その乾燥法を参考に供する。

2 技術の内容

(1) 葉たばこ二重遮光ハウスの構造は次のとおりとする。



(2) 葉たばこ二重遮光ハウスの管理と温湿度管理の目安

	粗水切 黄変期	褐変期	中骨固定期
中葉連干し	3～4日	10～14日	10日
	一重遮光 (内部のみ)	二重遮光	屋内吊かえ
	カタ, ツマ, 1日2回程度の換気。夜間は密閉。低温・雨天時は風火力利用		屋内の換気 (発カビ防止)
本葉幹干し	4～7日	30～33日	
	一重遮光 (内部のみ)	二重遮光	
	連干しと同じ操作 (全期間ハウス)		
温度 (℃)	25～30	25～28	25～30
湿度 (%)	75～85	85～75	75～65

(3) 二重遮光ハウスによる乾燥法は、従来法に比べ温湿度管理がし易くなり、ハウスの開閉回数が1日1～2回減るとともに、急乾が防止され高品質葉が増加する。

3 指導上の留意事項

- (1) 二重遮光ハウスは、雨天続きの場合、吊腐れ・ムレ葉・カビ等が発生しやすいので、早めに風火力を利用する。特に幹干し乾燥で注意する。
- (2) 脱水状態が早くなる場合は、地面に散水し、湿度の調節をはかる。
- (3) 火力利用の場合は特に火災に注意する。
- (4) 高品質に仕上げるには基本的に適期収穫が重要であり、中葉系は適熟をみて、また本葉幹刈は、心止め後35日～40日頃を目安に収穫する。